

第 41 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 6 年 7 月 2 9 日（月） 午後 3 時～5 時まで	
開催場所	奈良市役所中央棟 B1 会議室	
議題	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 事 （1）令和 5 年度第 2 次奈良市文化振興計画に基づく推進施策の評価について 4. 報告事項 （1）令和 6 年度主な事業の実施状況について （2）文化に関するアンケート調査（奈良市市政モニター）について （3）文化施設のあり方検討部会について 5. その他 （1）奈良市文化振興補助金について	
出席者	委員	萩原会長、山下副会長、上田委員、小野委員、島委員、風間委員、松下委員 【計 7 人出席】
	事務局	谷田市民部部長、池田市民部次長、（以下文化振興課）森課長、荒益課長補佐、徳山総務係長、仲川、守道
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	
決定事項	・ 今回の会議録の署名は、萩原会長と風間委員が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

1.開会

2.会長挨拶

3.議事

（1）令和 5 年度第 2 次奈良市文化振興計画に基づく推進施策の評価について

資料 4 を用いて、令和 5 年度第 2 次奈良市文化振興計画に基づく推進施策の評価を説明。

〈委員からの意見〉

- ・ 目標値から大幅に低い数値となっている項目に関して、目標値をそのままにしておくのではなく目標値の見直しが必要なのではないか。
- ・ 文化に触れる機会が少ない人に対する鑑賞・活動機会の提供という項目で、自身が携わっている事業がある。内容を鑑みると若干性質が違うものではないかと思う。文化活動ばかりの発表というより、お祭りの意味合いが強いものであり、子ども・親子向け体験・教室・ワークショップ事業というより、子ども・親子向け鑑賞イベント推進事業に近いものと思われる。
- ・ アートマネジメント・コーディネート人材育成プログラムの推進項目で、達成率が低いことが残念に思う。文化振興課事業として行う他に、文化施設主体で行う体制も検討していかなければならない。
- ・ 施策別評価シートに総括があるが、漠然としている。各施設の事業に対する評価があり、その総括があり、

また、すべてをまとめた総括があれば分かりやすいと考える。

- ・施策別評価の指標作成時期以降に新型コロナウイルスの流行があった。その影響がどの程度なのか、今後もしその影響が残るのかということについて検討が必要。中止事業の精査が必要と考える。事務局で中止として挙げられている事業を今年度実施しているかの確認をお願いしたい。
- ・コロナ禍に動画配信への取り組みが進んだため、指標の見直しまたは、別の項目の作成が必要と考える。特に推進施策４－２「文化情報発信の充実」部分である。動画配信は、単なる情報発信であるのか、講座内容の配信を行っているような、アウトリーチに当たるようなものなのかわかるように精査が必要と考える。
- ・実績値をどのように評価するかが重要。目標値より実績値が下回っていたとしても、回復傾向にあり、２年後は目標値を上回る見込みなど、施策ごとに事務局が分析し、見通しなどをまとめたものがあればわかりやすい。

- ・総合評価の平均値は、アンケート等から算出した数値ということか。

→各文化施設が事業進捗確認シートにて評価した数値の合計を事業数で割ったものを、表記している。

- ・中止になった事業が記載されているが、主催者側の事情で中止されたのか、人数が集まらなかったため中止されたのか等理由はあるか。

→コロナ禍が原因で中止になったものや、主催者側の意向で中止となったものがあると報告を受けている。

また、ならまちセンター事業に関しては、外壁工事による休館や工事の騒音で事業を中止せざるを得ないという事情もあった。しかしながら、全ての事業中止理由は調べていない。

- ・目標値の達成率は予算など何らかの影響を及ぼすのか。

→直接予算とは連動はしていないが、達成できているものは有効な手段であるとして継続し、そうでないものに関しては見直す必要があると事業のあり方を見直すための指標として考えている。

- ・文化鑑賞・活動におけるバリアを除く事業数という項目のバリアについて、距離のバリアや世代差、言語など様々なバリアがあるので、一概に障害を持った方にだけ向けた事業の結果ではないと思うが、どのようなバリアを想定しているのか。

→大きく二つに分かれる。学校や園、福祉施設に出向くアウトリーチ推進事業と、委員ご指摘の様々なバリアをなくす文化イベント推進事業である。しかしながら、文化施設同士の垣根をなくすという意味のバリアを使ったりしているところもあれば、すべての世代にも開かれたものという形で回答しているものなど統一がされていない。

- ・施策別評価シートにある総合評価について都市文化の評価があるが、都市文化に対する評価が、他の評価項目より点数が低いのはなぜか。

→施設事業は貸館など直接市民と接するものが多く、市民という意識が高く、どうしても市民文化への評価が高くなり、自分たちの仕事が都市文化の方に繋がっているという認識が持ちにくい部分もあると思われる。また、特に小さい施設は、都市文化という認識が、自己評価の中で上がってきにくい構造があると考えられる。

4.報告事項

(1) 令和6年度主な事業の実施状況について

資料3を用いて、令和6年度主な事業の実施状況を説明。

〈委員意見〉

- ・現代アーティストと共に奈良を変えていこうという気概を感じられてよいが、事業ごとの関連性を持たせると良くなると思う。
- ・まちなか舞台は、会場に足を運ぶまでどのようなものかわからないという問題が解消されるため、見える場所で行うことは良いと思った。
- ・事業をどの様に見える化するかが大切と考える。

→ならまちセンターが今年 8 月からリニューアルオープンし、小さなギャラリーのような機能をもつゲートを設置した。使い方はこれから模索していくところであるが、ゲートで活動の様子や状況を伝える掲示板のような使い方も検討中している。興味深い活動を行う方々の情報を集約することを目指している。

- ・多くの外国人が奈良を訪れている。ただ消費されるのではなく、文化と観光と芸術が組み合わさるようなプログラムを検討したり、外国人旅行者への対応も考えていただきたい。
- ・是非奈良市アートプロジェクトで関わる団体にも補助金制度を案内してもらい、活躍を支援してほしい。
- ・事業評価シートでは、来場数など目に見える形でしか評価されていないがコロガル公園テラスのように、アートの取り組みがきっかけとなって場所の在り方が変わるといようなことこそ評価していきたい。

〈委員質問〉

- ・NARA ARTS BRIDGE for Youth の応募人数や参加者の人数は

→応募者は 22 名で 16 名を選考した。8 名ずつ中国と韓国に渡航予定。

- ・青少年と創る演劇 light の実施場所とまちなか舞台の応募状況について。

→青少年と創る演劇 light の会場は例年通り音声館を考えていたが、空調の故障問題があったため中部公民館など別の場所を考えている。まちなか舞台は現在 3 組の応募がある。

- ・古都祝奈良の学校では何を行うのか。

→全国からアーティストを募り、奈良をフィールドに活動を行う人材を育成する 2 日間の合宿行う予定。合宿内で考えたプランを 11 月実施イベントで発表予定。

- ・古都祝奈良の学校を実施するにあたり、進行役のような人はいるのか、内容はどのようなものか。

→プログラムディレクターと共にプログラム内容を考える予定。東アジア文化都市 10 周年に向け、2 年間にかけ、教科書を作成することを軸にプログラムを考える。

- ・古都祝奈良の学校でアーティストを育成するとしつつ、教科書を作るという目標があったとき、アートコーディネーターやアートマネジメント人材も同時に必要なのではないと思うが、アートマネージャー等は募集していないのか。

→古都祝奈良の事業を進める上で例年アートコーディネーターとして携わっている方がいる。事業を実施することでコーディネーターの活躍の場を創出し、育成にもつなげていきたいと考えている。

(1) 文化に関するアンケート調査について

資料 1－1、2 を用いて、文化に関するアンケート調査結果を説明。

文化施設のあり方検討会部会について

(2) 資料 2－1、2、3、4、5 を用いて、文化施設のあり方検討会部会について説明。

〈委員質問〉

- ・音声館に関し、これまでどのようなシンポジウムや会議を実施したのか。

→兵庫県立芸術文化観光専門職大学副学長藤野一夫氏を招き「文化施設とまちづくりシンポジウム」を実施した。シンポジウムでは藤野氏にドイツの事例などを紹介いただきながら文化的コモンズの形成についてや、文化と観光のあり方を説明いただいた。パネルディスカッションでは、文化的コモンズの話を受

け、施設をどの様に運営すべきか議論いただいた。また、「音声館の未来をつくるアイデア会議」では、奈良県立大学地域創造学部講師風間勇助氏をファシリテーターに招き現状とあるべき姿を考え、最後に課題を深掘りし、解決策を発表した。具体的な意見や本音が聞けて有意義な時間となった。

→あり方検討部会として音声館条例改正の必要性の指摘があった。また、ワークショップ参加者からも現在の条例の範囲が狭いことは指摘があった。今後、条例改正の提案を進めていきたい。

〈委員意見〉

- ・資料１－２「あなたのお住まいの地域での文化的な環境に満足していますか」という質問に対して満足していないと回答した方の割合と「文化芸術に関する活動をしなかった理由」で「活動のきっかけがないから」と回答した方の割合を鑑みた際、文化活動を少しでも行っている方は、そこまで不満を持たないのではないかと見て取れた。きっかけ作りが重要だと感じた。また、きっかけづくりが音上館でできればよい。
- （事務局補足）「文化芸術に関する活動をしなかった理由」の回答で「育児・介護・仕事・勉強が忙しく時間的余裕がないため」という方の割合も大きかった。環境的、時間的部分が文化活動を主体的にする上で障害となっているとは感じている。環境づくりの部分では、新たな施設を増やすことは難しいが、アウトリーチ推進事業が重要な意味をもつと認識している。
- ・インバウンド対象事業も実施するために、１つの施設だけでなく他課や他施設との連携が必要。
- ・施設の案内は日本語対応のみが多いが、施設名や簡単な説明を英語で記載し海外の人にも開かれていることが伝わるようにするべき。
- ・施設の在り方を考えるにあたり、夢が膨らむアイデアも多く出てくるが、収益性の改善という目的を忘れてはいけない。

5. その他

（１）奈良市補助金について

資料５を用いて、奈良市補助金を説明。

奈良市文化振興計画推進委員会規則及び奈良市文化振興補助金交付要綱に基づいて、利害関係を有しない山下委員（副会長）、上田委員、関根委員、萩原委員（会長）の４名を文化振興補助金の審査部会の委員として、会長が指名した。

以上、議題終了